

杉並区立児童青少年センター（ゆう杉並）

ゆう杉並の部活動＜オフィシャルアニメ＞について

取組の背景・目的

ゆう杉並では、自主的な活動の応援として＜オフィシャル活動＞を、開設 2 年目より実施しています。オフィシャル活動は、学校の部活動のように継続的に実施し、プロの講師などの指導を受けています。

また、好きなことを通して友だちを増やしたり、社会性を身につけること。人に喜ばれる体験から自己有用感が得られることを目的として取り組んでいます。

過去は「バスケット」「ダンス」「クライミング」「クッキング」などなど、様々な活動を行ってきました。令和 4 年度は、「ボーカル」「演劇」「アニメ」「鉄道」の 4 つのオフィシャル活動を実施しています。

取組の概要

実施場所（必要な備品等がある場合、どのように確保しているか。）

□ ゆう杉並 集会室など

実施頻度（例：週〇日、△時～□時）

□ 月 2 回程度 17:00～19:00（実施日によって変動あり）

職員体制（人数、常勤・非常勤など。事業の実施に必要な職員の確保はどのようにしているか。）

□ 常勤 1 名、会計年度任用職員 1 名

事業の実施方法（直営・委託・補助のいずれか。委託又は補助の場合、どのような事業者が実施しているか。）

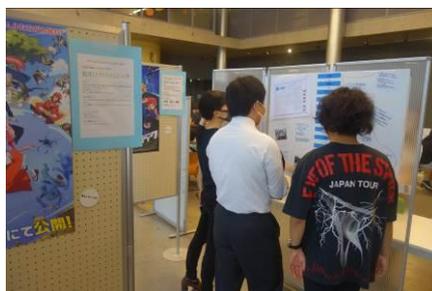
□ 直営で実施。事業内容によってアニメ制作会社に協力をいただいたり、講師として声優さんに来ていただいている。

工夫点・留意点

- 安心して自己表現ができる居場所となるよう、参加者同士のコミュニケーションのきっかけ作りやアイスブレイクを実施している。
- 相手にわかりやすく伝えることや、相手の意見を認めることなど、活動を通して社会性を身に着けられるよう援助している。
- イベントの実施に際しては、規模感や中高生の関り方に段階をつけ、イベントごとに参加者ができることを増やしていけるよう意識している。
- 参加者同士の関りやイベントの実施を通して、自己有用感や自己肯定感を感じられるよう支援している。

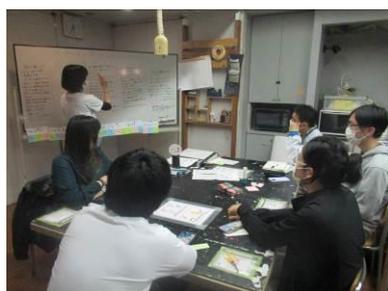
取組の効果

- 趣味の話を通して適切な自己表現の方法を知り、他者への理解を深める機会となっている。
- イベントの企画・実施を通して自身の役割を意識し、積極的な行動につながる。
- イベントでの地域の企業や大人の協力・応援によって、自分たちの活動に自信を持って取り組むことができる。



課題・今後の展開

- 安心して自己表現ができる居場所としてあり続けられるよう継続した支援を行っていく。
- 年度によって参加者のできることを見極めながら計画していく必要がある。



杉並区立児童青少年センター（ゆう杉並）

ゆう杉並の部活動<オフィシャルボーカル>について

取組の背景・目的

ゆう杉並では、自主的な活動の応援として<オフィシャル活動>を、開設 2 年目より実施しています。オフィシャル活動は、学校の部活動のように継続的に実施し、プロの講師などの指導を受けています。

また、好きなことを通して友だちを増やしたり、社会性を身につけること。人に喜ばれる体験から自己有用感が得られることを目的として取り組んでいます。

過去は「バスケ」「ダンス」「クライミング」「クッキング」などなど、様々な活動を行ってきました。令和 4 年度は、「ボーカル」「演劇」「アニメ」「鉄道」の 4 つのオフィシャル活動を実施しています。

取組の概要

実施場所（必要な備品等がある場合、どのように確保しているか。）

- ゆう杉並内での練習および公演。
- 区内施設での公演。

実施頻度（例：週〇日、△時～□時）

- 毎週木曜日（中高生の試験期間を除く） 18:00～20:00

職員体制（人数、常勤・非常勤など。事業の実施に必要な職員の確保はどのようにしているか。）

- 常勤 1 名、会計年度任用職員 1 名
- 講師 2 名

事業の実施方法（直営・委託・補助のいずれか。委託又は補助の場合、どのような事業者が実施しているか。）

- 外部講師を招いての活動。講師と担当職員が相談の上、活動の内容の大枠を決定。職員は事前準備や所属メンバーとの連絡調整を行っている。
講師はボイストレーナー担当とピアノ・編曲担当の 2 名。

工夫点・留意点

- 所属メンバーの一人ひとりが自分の意見や気持ちを発言できるよう、コミュニケーションの援助を行っている。
- 講師と所属メンバーとのコミュニケーションの架け橋となる。
- 応援が必要な所属メンバーには、個別の聞き取りや相談対応を行い、活動が楽しめるよう支援している。
- 講師や職員が主導にはならず、メンバー自身が活動内容やタイムスケジュールを決定するなど、自主的に活動できる場とする。



活動中の様子

取組の効果

- 学校以外での集団活動の場を経験できる。
- 「自主」が育つ。中高校生自ら、一から作り上げる経験ができる。
公演にあたり、曲順やパフォーマンス、MCなどを自分たちで決める。
- 大人たちが自分たちのより良い活動のためにサポートしていることに所属メンバー自身が気づく。
- 所属メンバー内訳

		女子	男子
中学生	1		
	2	1	
	3		
高校生	1	1	2
	2	7	
	3	1	
合計		12名	



阿佐谷ジャズストリート

西田の丘フェス



課題・今後の展開

- 外部の公演に積極的に参加する。
コロナ禍のため、外部公演数が減っていた。
- ゆう杉並オフィシャルボーカルの認知度を高める。
区民に多く知れ渡るように、活動を応援してもらえるように。

杉並区立児童青少年センター（ゆう杉並）

ゆう杉並の部活動＜オフィシャル演劇＞について

取組の背景・目的

ゆう杉並では、自主的な活動の応援として＜オフィシャル活動＞を、開設 2 年目より実施しています。オフィシャル活動は、学校の部活動のように継続的に実施し、プロの講師などの指導を受けています。

また、好きなことを通して友だちを増やしたり、社会性を身につけること。人に喜ばれる体験から自己有用感が得られることを目的として取り組んでいます。

過去は「バスケット」「ダンス」「クライミング」「クッキング」などなど、様々な活動を行ってきました。令和 4 年度は、「ボーカル」「演劇」「アニメ」「鉄道」の 4 つのオフィシャル活動を実施しています。

取組の概要

実施場所（必要な備品等がある場合、どのように確保しているか。）

- ゆう杉並内での練習および公演。
- 区内施設での公演。

実施頻度（例：週〇日、△時～□時）

- 毎週水曜日（中高生の試験期間を除く） 18:00～20:00

職員体制（人数、常勤・非常勤など。事業の実施に必要な職員の確保はどのようにしているか。）

- 常勤 1 名、会計年度任用職員 1 名
- 講師 1 名

事業の実施方法（直営・委託・補助のいずれか。委託又は補助の場合、どのような事業者が実施しているか。）

- 講師と相談の上、講師がレッスンを実施。職員は準備や、中高生との連絡調整を行っている。
- 演目や配役は、講師と中高生で決めている。

工夫点・留意点

- 学校・学年・性別もバラバラのチームになるため、チームワーク・人間関係の部分は特に留意している。そのために、参加する子ども達一人ひとりとの関りを大切に、子ども達同士のコミュニケーションがよりスムーズに行えるような声掛け等を心掛けている。
- 子ども達の主体性を育むことが目的の一つでもあるため、発表の場所や目的、それらを踏まえた演目や配役など、じっくり話し合う時間を本番ごとにしっかり取るようにしている。また、発表後には全員で映像を見ながら振り返りを行い、良かった点や反省点などの気付きを全体で共有している。
- 演技についての意見交換や、話し合いの際に、お互いの意見を尊重しながら少しでも本音で話ができるよう活動時間の中でゲームをしたり、本番を終えた振り返りの際は、飲み物を飲みながら雑談の時間を設けるなどリラックスした雰囲気作りを行い、少ない時間の中でメリハリをつけてグループワークを行っている。



取組の効果

- 本人達の達成感、充実感、自己実現、自己有用感が得られる。
- 地域への還元となる（小学校、高齢者施設、プラザなど）
- ゆう杉にいる同世代の利用者や、同じ official の仲間同士での刺激がある。
→ 学校以外のコミュニティで知り合った同世代と協力してイベント実施することで様々な視点・アイデア等に触れられる。
- 卒業後もゆう杉への愛着を持ってボランティアなどに関わっている。

課題・今後の展開

【課題】

- 学校によって行事や試験の期間が異なるため、実質の活動時間はそれほど多くなく参加メンバー全員が集まることがなかなか難しい。本番をたくさん体験したいというメンバーの希望と、練習不足のまま本番を迎えるという矛盾をうまくコントロールし、調整していくことが課題。
- 年間を通しての活動として位置付けているため、年度初めにメンバーを募集するが、なかなか集まらない。広報力が必要。

【今後の展開】

- 引き続き地域への還元を行う。まだまだ、できる場所ややり方はあると思う。メンバーと一緒に考えていきたい。

杉並区立児童青少年センター（ゆう杉並）

ゆう杉並の部活動＜オフィシャル鉄の会＞について

取組の背景・目的

ゆう杉並では、自主的な活動の応援として＜オフィシャル活動＞を、開設 2 年目より実施しています。オフィシャル活動は、学校の部活動のように継続的に実施し、プロの講師などの指導を受けています。

また、好きなことを通して友だちを増やしたり、社会性を身につけること、人に喜ばれる体験から自己有用感が得られることを目的として取り組んでいます。

過去は「バスケット」「ダンス」「クライミング」「クッキング」などなど、様々な活動を行ってきました。令和 4 年度は、「ボーカル」「演劇」「アニメ」「鉄道」の 4 つのオフィシャル活動を実施しています。

取組の概要

実施場所（必要な備品等がある場合、どのように確保しているか。）

□ ゆう杉並 集会室など

実施頻度（例：週〇日、△時～□時）

□ 土曜日 月 2 回程度 14:00～16:00（実施日によって変動あり）

職員体制（人数、常勤・非常勤など。事業の実施に必要な職員の確保はどのようにしているか。）

□ 常勤 1 名、会計年度任用職員 1 名

事業の実施方法（直営・委託・補助のいずれか。委託又は補助の場合、どのような事業者が実施しているか。）

□ 直営で実施。ジオラマ制作などの専門的な知識が必要な事業では、地域の鉄道サークルの援助や指導をいただいている。

工夫点・留意点

鉄道好きのメンバーが集まり、みんなで鉄道トークや鉄道模型を楽しんだり、ゆう杉並の館内のまつりでブースを出したり、地域の児童館に出張して乳幼児親子や小学生に鉄道模型で遊んでもらうなどの活動をしています。

電車の写真を撮るのが好き、乗るのが好き、音を聞くのが好きなど、メンバー一人ひとりがそれぞれの楽しみ方をもっていますが、ここに来たら鉄道の話を中心までできる！ということをお大切に活動しています。

また、参加メンバーは学校や学年もバラバラなので、話し合いのときはお互いの意見を尊重しながら聞くことや、作業のときはみんなで分担して協力することを心がけています。



取組の効果

ゆう杉並の文化祭「ゆう杉祭」に鉄の会として参加しました。どんなコーナーを出すか、そのコーナーのためにどんな準備が必要なのか、役割分担等、メンバー同士で話し合いを重ね、作業も分担してゆう杉祭に向けて準備していきました。

ゆう杉祭当日は、メンバーが積極的に鉄の会ブースの宣伝を行い、多くの中高生が来てくれました。参加者に鉄道模型の操作を教えたり、駅や車両の解説をするなど多くの人に鉄道の魅力を伝えていきました。

ゆう杉祭が終わるとメンバーからは、「参加者が盛り上がり楽しんでくれてよかった」「興味をもってたくさん質問してくれる人もいた」など感想が聞かれ、自分が好きなことを通して人を喜ばせることができたという充実感にあふれた表情でした。

企画から準備、当日までをみんなで協力して行ったことで、より仲が深まり、メンバー同士の絆も深まっていったように思います。

課題・今後の展開

今後の活動をメンバーで話し合い、「ジオラマ制作」を行うことになりました。

ジオラマ制作は専門的な知識や技術が必要なため、ジオラマづくりに詳しい地域の方に講師として来ていただき、サポートを受けながら制作に取り組んでいます。メンバーも経験豊富な講師と楽しそうに関わる姿があり、地域の方との関わりが自分たちの活動の幅をさらに広げたり、知識や技術の習得につながっています。

今後もジオラマ制作を含め、館内のイベントや地域の児童館へのお出張などを経験しながら、メンバー同士が交流し、成長していける楽しい場所をメンバーと一緒につくっていきます。

杉並区立児童青少年センター（ゆう杉並）

ゆう杉並 中・高校生運営委員会の活動について

取組の背景・目的

ゆう杉並は、今年度で開設 25 周年を迎えました。開設にあたって、当時の中高生 43 名が「建設委員会」を立ち上げ施設の機能・設備・運営をどのようなものにするか話し合い、区に提出して今の施設が出来ました。

その建設委員会の意思を引き継ぎ、「中・高校生運営委員会」が発足。26 期に渡って活動を続けています。主たる利用者である中高生自身が、ゆう杉並の運営に対する意見を述べ、企画の実施をするなど、まさにゆう杉並の中心となって活躍してくれています。

今年度、26 期運営委員会は中学生 2 名・高校生 10 名で活動しています。



取組の概要

実施場所 : ミーティングルーム

委員会・Official チーム（部活動）が使用できる部室です。

委員会では、定例会議の実施や常設の PC で資料作成をします。

実施頻度 : 定例会議 月 2-3 回/部会作業等 年 10 回位

その他 他自治体中高生施設見学・委員研修・区内他児童館との交流事業・地域団体の行事への参加・Official チームとの交流会等



職員体制 : 担当 常勤 3 名

イベントや地域行事への参加など、その時々で施設職員全体で分担して関わっています。

事業の実施方法 : 公設公営

募集は、杉並区 HP・杉並区広報誌・近隣中学校・高校へのチラシ配布を行っています。

任期は 6 月～次年度の 5 月まで。

児童青少年課課長より、委嘱状を受け取り 1 年の活動がスタートします。



工夫点・留意点

■メンバー募集時

ゆう杉並の利用者の代表として職員と一緒に運営を考える存在であるので、ゆう杉並に愛着をもち、よく利用している利用者の参加を促しています。一方、様々な視点で中高生の意見を反映し、中高生の自主性を促進する目的で公募も行っています。

今年度も、学校も学年も様々なメンバーが集まり、自由な意見・発想を伝えあい、みんなで目的に向かって活動していくという醍醐味を感じ、刺激し合っています。また、自主性を発揮できるよう、役員（委員長・副委員長・書記）を選出しまとめ役を担ってもらっています。

■年間の活動

活動の大きな柱として「広報活動」（ゆう杉並や委員会活動を知ってもらう）「広聴活動」（利用者の意見を聞く意見箱の設置。その意見を検討する）があります。メンバーはいずれかの役割を分担し、部会別に活動を行います。成果物を作成するなど一人ひとりが自分の役割を意識できる活動を心がけています。

年間の活動の最初に、ブレインストーミングを取り入れ各自のやりたいことを書きだし、それぞれの思いを共有した後、活動のテーマを考えています。今年度は「自分たちが中心となって活動しよう」「地域に出よう」というテーマを掲げ、“ワンチーム～俺らがやんねん・初心に返りちゃんとやんねん”というスローガンをみんなで考えました。最初の思いを大切にすることで、活動の指針となっています。

取組の効果

■学校外での活躍の場所に

メンバーを広く募集することで、学校・学年を越えた新しい出会いの中で、みんなで一つのことに取り組み形にする楽しさ、学校とは違う居心地の良さを感じ、居場所として各自が各自の良さを認め合う場所となっています。ここ2年はコロナ禍に直面し、学校の行事や部活動の休止などで活動の制限の中で、「どこかで何かやりたい」「自分の意見を伝える場所で力を発揮してみたい」という声も増え、学校や塾・習い事ではない、自ら行きたい・やりたいという気持ちの出せる場所になっています。

どの活動に対しても和気あいあいと、良い雰囲気に参加している様子があります。委員からは「色々な学校・趣味・性格の人がいて、自分の考え方も広がる！！」という感想もあります。

1年間の任期の中で、ゆう杉並に対する愛着や委員としての自覚が育ち、もっとゆう杉並を知ってもらいたいという気持ちで、イベントの実施や広報活動に奔走しています。

■それぞれの役割を意識した活動

定例会の前に「役員会」を行って、委員長・副委員長が中心となって今日の内容・タイムテーブルを確認したり、今後の計画の進捗を確認しています。役員それぞれの自覚が高まり、定例会の進行もスムーズになりました。いつまでに何をしていくのか、メンバーみんなで共通認識を持てるようになり、自分達で委員会を進める意識が高まり、メンバーの所属感・自己有用感につながっています。

■利用者の“中心”として

委員会活動を見てもらう・知ってもらう・参加してもらおうという目的で、普段会議室で行っている定例会を、誰でも過ごせるロビーで行う「オープン定例会」を実施しました。昨年度は、コロナが落ち着いたらなにかがしたい？と利用者にアンケートを実施し、その内容をこのオープン定例会で検討しました。いつもの会議の様子を見てもらうとともにその場の利用者を巻き込み、ゆう杉のことをみんなで考えました。利用者にとってもゆう杉並に愛着を持ちまた来たいと思えるきっかけになり、委員会メンバーにとっても他の利用者と交流し、自分たちの活動を実感できる機会となっています。

課題・今後の展開

■部活や塾などがあり参加しにくいメンバーとたくさん来館できるメンバーがいる中での活動の工夫

■特に初めて参加するメンバーは、1年間継続して参加できるような声掛けが必要。

■委員会のメンバーから、より中高生に身近なインスタグラムなど SNS を活用した広報活動に取り組みたいという意見が出ている。アカウントの立ち上げや運用方法など、中高生と意見を交わしながら丁寧に進めていきたい。